

県指定有形文化財
考古資料の部

供養塚古墳出土形象埴輪 (くようづかこふんしゅつどけいしゅうはにわ)

名称	供養塚古墳出土形象埴輪
員数	142
規模・構造	蓋(きぬがさ)形埴輪 31点 家形埴輪 40点 鞞(ゆき)形埴輪 2点 甲冑形埴輪 5点 馬形埴輪 24点 鳥形埴輪 2点 人物形埴輪 26点 不明 12点
所在地	滋賀県立安土城考古博物館・ 滋賀県埋蔵文化財センター
所有者	滋賀県
時代	古墳時代中期後半(5世紀後半)
出土遺跡の所在地	近江八幡市千僧供町

説明:

千僧供古墳群は、古墳時代中期から後期にかけて瓶割山(かめわりやま)西側麓一帯に営まれた大小10数基の古墳群からなり、湖東平野における首長系列の動向を良好に示す古墳群であることから、昭和59年3月

に県指定史跡となっている。このうち唯一の前方後円墳である供養塚古墳から、円筒埴輪、朝顔形埴輪以外に、蓋形・家形・鞞形・甲冑形・馬形・鳥形・人物形など多様な埴



輪が出土した。いずれも周濠からの出土であるが、その出土位置から、蓋形埴輪は墳丘の円筒埴輪の間に、人物・馬・家・甲冑形埴輪がクビレ部に設けられた造り出し付近の外側、外堤帯上の一角に配置されていた可能性の強いことが判明した。

家形埴輪は、大小7個体程度で、切妻・入母屋あるいは寄棟式などがあり、囲い形埴輪の可能性のあるものもある。馬形埴輪は、杏葉(ぎょうよう)などの装飾を残すものが少なく、飾り馬でない可能性が高い。人物埴輪は、複数の女性と男性2個体分が確認できた。

女性埴輪には、袷袢(けさ)式の衣と襷(たすき)、首飾りを表現するものがある。男性埴輪には、冠状のものを被るものと裸足で力士の可能性のあるものがある。

埴輪の実態の知れるものが少ない県内において、当古墳出土のものは、樹立位置が復元でき、種類も多く、研究に資するところが大きい。また、円筒埴輪の製作技法が、大阪府に所在する大型古墳群である百舌鳥・古市古墳群のものと類似しており、被葬者の性格を考える上に重要な手がかりを与えている。